中学生における攻撃性の傾向に関する研究

朝長　昌三・福井　昭史・小島　道生
中村　千秋・小原　達朗・柳田　泰典

The Research on Tendency to Aggressiveness in Secondary School Students

Shozo TOMONAGA・Akifumi FUKUI・Michio KOJIMA
Chiaki NAKAMURA・Tatsuro OBARA・Yasunori YANAGIDA

はじめに

全国児童相談所長会（2005）が2003年度に受け付けた約11000人の非行相談を分析した結果，その約70%が中学生であったという．また「攻撃性が高い」や「情緒不安定」といった心理的・精神的問題を抱える子どもは85%だったという．

文部科学省（2006）は，平成17年度における中学校の生徒の問題行動等の状況について報告した．それによると，公立中学校の生徒が起こした暴力行為の発生件数は25796件だったという．また形態別では，生徒間暴力が12960件で最も多く，それ以外として器物損壊，対教師暴力そして対人暴力であったという．

問題行動の心理行動的特徴として，高い攻撃性や衝動性が問題行動の大きな危険要因の１つであるとされている．したがって，攻撃性や衝動性の高まる兆候がみられた段階で，早急に適切な対策を講じることが，このような問題行動の防止のためには必要であると考えられている．

そこで，本研究では中学生の攻撃性の傾向について，2006年に行った同じ中学校生徒の攻撃性を敵意，身体的攻撃，言語的攻撃及び短気から検討することを目的とした．

方　法

（1）　被験者

長崎市及び近郊の中学生1986名（男子1032名，女子954名）であった．

１年生は男子が356名で女子が321名，２年生は男子が356名で女子が306名，３年生は男子が320名で女子が327名であった．

（2）調査

調査は中学生用攻撃性質問紙（HAQ －S）を用いて行った．

本質問紙は敵意，身体的攻撃，言語的攻撃及び短気の４要因に関する23項目から構成されている．

被験者は各質問項目に対して「まったくあてはまらない」,「あまりあてはまらない」,「よくあてはまる」.「とてもよくあてはまる」の４段階の１つに回答した.

結　果

結果の処理については，以下のように行った.

各質問項目に対する「まったくあてはまらない」の回答に１点,「あまりあてはまらない」に２点,「よくあてはまる」に３点,「とてもよくあてはまる」に４点を加算し，それらの合計点を各被験者の敵意，身体的攻撃，言語的攻撃及び短気の代表値としてｔ－検定を行った.

また各要因の合計点を判定基準に従って,「非常に低い」,「やや低い」,「普通」,「やや高い」,「非常に高い」と判定した.

(1)　男子生徒における攻撃性の比較

1）全学年の攻撃性（ n=1032)

敵意　　：$\bar{x}$ =13.444　SD=3.701

身体的攻撃：$\bar{x}$ =15.590　SD=3.842

言語的攻撃：$\bar{x}$ =13.145　SD=2.512

短気　　：$\bar{x}$ =12.844　SD=3.521

① 敵意と身体的攻撃の比較

t =12.925　(p <.01)　d f =2062

② 敵意と言語的攻撃の比較

t =2.143　(p <.05)　d f =2062

③ 敵意と短気

t =3.772　(p <.01)　d f =2062

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t =17.110　(p <.01)　d f =2062

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t =16.928　(p <.01)　d f =2062

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t =2.238　(p <.05)　d f =2026

以上のように，男子生徒は身体的攻撃が最も大であった.

2）１年生男子の攻撃性 (n=356)

敵意　　：$\bar{x}$ =13.193　SD=3.632，判定：普通

身体的攻撃：$\bar{x}$ =15.129　SD=3.790，判定：普通

言語的攻撃：$\bar{x}$ =13.183　SD=2.522，判定：やや高い

短気　　：$\bar{x}$ =13.022　SD=3.675，判定：普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

t =6.899　(p <.01)　d f =710

② 敵意と言語的攻撃の比較

t＝.047　有意差なし

③ 敵意と短気の比較

t＝.620　有意差なし

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t＝8.068　（p＜.01）　d f＝710

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t＝7.529　（p＜.01）　d f＝710

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t＝.678　有意差なし

以上のように，１年生男子の攻撃性に関しては身体的攻撃が最も大であった.

3）２年生男子の攻撃性（n＝356）

敵意　：$\bar{x}$＝13.775　SD＝3.870，判定：普通

身体的攻撃：$\bar{x}$＝16.076　SD＝3.902，判定：普通

言語的攻撃：$\bar{x}$＝13.200　SD＝2.535，判定：普通

短気　：$\bar{x}$＝13.202　SD＝3.509，判定：普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

t＝7.898　（p＜.01）　d f＝710

② 敵意と言語的攻撃の比較

t＝2.348　（p＜.05）　d f＝710

③ 敵意と短気の比較

t＝2.070　（p＜.05）　d f＝710

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t＝11.664　（p＜.01）　d f＝710

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t＝10.332　（p＜.01）　d f＝710

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t＝.012　有意差なし

以上のように，２年生男子の攻撃性に関しては身体的攻撃が最も大であった.

4）３年生男子の攻撃性（n＝320）

敵意　：$\bar{x}$＝13.353　SD＝3.495，判定：普通

身体的攻撃：$\bar{x}$＝15.563　SD＝3.777，判定：普通

言語的攻撃：$\bar{x}$＝13.044　SD＝2.481，判定：普通

短気　：$\bar{x}$＝12.247　SD＝3.286，判定：普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

t＝7.680　（p＜.01）　d f＝638

② 敵意と言語的攻撃の比較

t＝1.291　有意差なし

③ 敵意と短気の比較

t＝4.125　（p＜.01）　d f＝638

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t＝9.971　（p＜.01）　d f＝638

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t＝11.847　（p＜.01）　d f＝638

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t＝3.462　（p＜.01）　d f＝638

以上のように，３年生男子の攻撃性に関しては身体的攻撃が最も大であった.

（2）女子生徒における攻撃性の比較

1）全学年の攻撃性（n＝954）

敵意　：$\bar{x}$＝13.742　SD＝3.508

身体的攻撃：$\bar{x}$＝13.635　SD＝3.637

言語的攻撃：$\bar{x}$＝12.531　SD＝2.509

短気　：$\bar{x}$＝13.408　SD＝3.299

① 敵意と身体的攻撃の比較

t＝.654　有意差なし

② 敵意と言語的攻撃の比較

t＝8.670　（p＜.01）　d f＝1906

③ 敵意と短気の比較

t＝2.144　（p＜.05）　d f＝1906

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t＝7.716　（p＜.01）　d f＝1906

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t＝1.431　有意差なし

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t＝6.530　（p＜.01）　d f＝1906

以上のように，女子生徒の攻撃性に関しては敵意が最も大であった.

2）１年生女子の攻撃性（n＝321）

敵意　：$\bar{x}$＝13.408　SD＝3.429，判定：普通

身体的攻撃：$\bar{x}$＝14.059　SD＝3.490，判定：普通

言語的攻撃：$\bar{x}$＝12.829　SD＝2.500，判定：普通

短気　：$\bar{x}$＝13.763　SD＝3.205，判定：普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

t＝2.384　（p＜.05）　d f＝640

② 敵意と言語的攻撃の比較

t＝2.446　（p＜.05）　d f＝640

③ 敵意と短気の比較

t＝1.356　有意差なし

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t＝5.136　（p＜.01）　d f＝640

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t＝1.119　有意差なし

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t＝4.120　（p＜.01）　d f＝640

以上のように，１年生女子の攻撃性に関しては身体的攻撃が最も大であった．

3）２年生女子の攻撃性（n＝306）

敵意　：$\bar{x}$＝14.229　SD＝3.601，判定：普通

身体的攻撃：$\bar{x}$＝13.565　SD＝3.623，判定：普通

言語的攻撃：$\bar{x}$＝12.356　SD＝2.589，判定：普通

短気　：$\bar{x}$＝13.409　SD＝3.413，判定：普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

t＝2.272　（p＜.05）　d f＝610

② 敵意と言語的攻撃の比較

t＝7.386　（p＜.01）　d f＝610

③ 敵意と短気の比較

t＝2.892　（p＜.01）　d f＝610

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t＝4.750　（p＜.01）　d f＝610

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t＝.551　有意差なし

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t＝4.297　（p＜.01）　d f＝610

以上のように，２年生女子の攻撃性に関しては敵意が最も大であった．

4）３年生女子の攻撃性（n＝327）

敵意　：$\bar{x}$＝13.615　SD＝3.459，判定：普通

身体的攻撃：$\bar{x}$＝13.284　SD＝3.757，判定：普通

言語的攻撃：$\bar{x}$＝12.404　SD＝2.421，判定：普通

短気　：$\bar{x}$＝13.058　SD＝3.256，判定：普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

t＝1.169　有意差なし

② 敵意と言語的攻撃の比較

t＝5.187　（p＜.01）　d f＝652

③ 敵意と短気の比較

t＝2.119　（p＜.05）　d f＝652

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

t＝3.563　（p＜.01）　d f＝652

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

t＝.823　有意差なし

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

t＝2.917　（p＜.01）　d f＝652

以上のように，３年生女子の攻撃性に関しては敵意が最も大であった.

（3）性差

1）敵意

① １年生：t＝.780　有意差なし

② ２年生：t＝1.552　有意差なし

③ ３年生：t＝.957　有意差なし

以上のように，敵意に関しては女子の方が大であったが統計的に有意な差はなかった.

2）身体的攻撃

① １年生：t＝3.808　（p＜.01）　d f＝675

② ２年生：t＝8.530　（p＜.01）　d f＝660

③ ３年生：t＝7.691　（p＜.01）　d f＝645

以上のように，身体的攻撃に関しては男子の方が大で統計的にも有意であった.

3）言語的攻撃

① １年生：t＝1.831　有意差なし

② ２年生：t＝4.226　（p＜.01）　d f＝660

③ ３年生：t＝3.321　（p＜.01）　d f＝645

以上のように，言語的攻撃に関しては男子の方が大であった.

4）短気

① １年生：t＝2.781　（p＜.01）　d f＝675

② ２年生：t＝.764　有意差なし

③ ３年生：t＝3.154　（p＜.01）　d f＝645

以上のように，短気に関しては女子の方が大であった.

考　察

本研究においては，中学生の攻撃性の傾向を敵意，身体的攻撃，言語的攻撃及び短気から検討することを目的とした．

（1） 男子生徒の攻撃性

攻撃性の安定性に関しては，男性の攻撃性は女性に比べて，より身体的であるとされている．このことは，嶋田ら（1998）や朝長ら（2006）の研究においても同様の結果であった．また本研究においても中学生男子の攻撃性は，身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．

判定基準の「やや強い」と「非常に強い」を「強い攻撃性」とした場合，「強い身体的攻撃」の割合は34%であった．また「強い敵意」が38%，「強い言語的攻撃」が48%，「強い短気」が37%であった．また朝長ら（2006）の研究では，「強い身体的攻撃」が33%，「強い敵意」が41%，「強い言語的攻撃」が52%，「強い短気」が40%であった．これらの結果から，同一中学校の2005年と2006年の生徒の「強い攻撃性」の割合はほとんど同じといえる．

また攻撃性の４要因のうち，強い攻撃性を１つ有している場合を１要因型としたとき，78%(80%)の生徒が１要因型であった．また４要因のすべてが強い攻撃性の場合を４要因型としたとき，７%（９%）の生徒が４要因型であった．これらの結果から，同一中学校の 2005 年と2006年の生徒の１要因型と４要因型の割合もほとんど同じといえる．

以上のように，中学生男子の攻撃性に関しては，平均値からみると身体的攻撃が最も大であったが，判定基準からみると「強い言語的攻撃」の割合が最も高いといえる．

本研究では反応的攻撃に視点をおいた攻撃性の検討を行った．反応的攻撃は怒りを伴い，衝動性と関係し情緒制御がうまく働かないことが攻撃の発現に関わるとされている．すなわち，情緒制御能力の遅れが反応的攻撃と関わっていると予測されている．したがって，本研究で得た男子生徒の攻撃性に関しては，反応的攻撃の中でも，量的には身体的攻撃が，質的には強い言語的攻撃が48%であったことから，男子生徒の情緒を制御する能力の遅れが考えられる．

1） １年生男子の攻撃性

１年生男子の攻撃性は，身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．「強い身体的攻撃」の割合は27%（33%）であった．また「強い言語的攻撃」が61%（62%），「強い短気」が41%（50%），「強い敵意」が 42%（50%）であった．１要因型の生徒は 84%（87%），４要因型は10%（９%）であった．

以上のように，１年生男子の攻撃性に関しては，平均値からみると身体的攻撃が最も大であったが，判定基準からは「強い言語的攻撃」の割合が最も高かった．

2） ２年生男子の攻撃性

２年生男子の攻撃性は，身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．「強い身体的攻撃」の割合は47%（42%）であった．また「強い言語的攻撃」は44%（45%），「強い短気」は44%（43%），「強い敵意」は 49%（49%）であった．１要因型の生徒は 85%（81%），４要因型は９%（12%）であった．

以上のように，２年生男子の攻撃性に関しては，平均値からみると身体的攻撃が最も大であ

ったが，判定基準からは「強い敵意」の割合が最も高かった．曽我（2001）によると，敵意は他者に対する否定的な信念・態度であり，特に対人関係認知にかかわる攻撃性で，人間関係の重視や共感・思いやりなどの対人的要素の強い協調性から強い影響力を受けるとしている．また敵意といった攻撃性は緊張，不安，抑うつなどの情緒性と中学生以後に関係してくるとしている．

さらに，本年度の２年生が１年生のときの「強い身体的攻撃」は 33%で，２年生になると47%であった．このように，「強い身体的攻撃」の割合は２年生になると１年生のときに比べると高くなっていることがわかった．

3） 3年生男子の攻撃性

３年生男子の攻撃性は，身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．「強い身体的攻撃」の割合は30%（28%），「強い言語的攻撃」は39%（46%），「強い短気」は23%（26%），「強い敵意」は22%（28%）であった．１要因型は66%（70%），４要因型は３%（７%）であった．

以上のように，３年生男子の攻撃性に関しては，平均値からみると身体的攻撃が最も大であったが，判定基準からは「強い言語的攻撃」の割合が最も高かった．

さらに，２年生のときの「強い身体的攻撃」は 42%であったが，３年生では 30%に，「強い敵意」は49%が22%に，「強い言語的攻撃」は45%が39%に，「強い短気」は43%が23%というように，「強い攻撃性」の割合は３年生になると２年生のときに比べると小さくなっていることがわかった．

（2） 女子生徒の攻撃性

女性の攻撃性はより間接的なもので，仲間はずれや無視をさせるといった直接表われにくい関係性攻撃が特徴とされている．本研究における中学生女子の攻撃性は，敵意が最も大であった．また「強い敵意」の生徒は25%，「強い身体的攻撃」は33%，「強い言語的攻撃」は38%，「強い短気」は34%であった．朝長ら（2006）の研究では，「強い敵意」は26%，「強い身体的攻撃」は32%，「強い言語的攻撃」は38%，「強い短気」は35%であった．また１要因型は55%，４要因型は 5%であった．2006 年においては１要因型は 67%，４要因型は５%であったことから，「強い攻撃性」の割合は１要因型の減少はあるが，他の要因に関してはほとんど同じといえる．

以上のように，中学生女子の攻撃性に関しては，平均値からは敵意が最も大であったが，判定基準からは「強い言語的攻撃」の割合が最も大であった．すなわち，中学生女子の攻撃性は，量的面からは他者に対する否定的な信念・態度が強く，対人的要素の強い協調性に問題があり，質的面からは行動や情緒反応を抑制することが苦手で，ささいなことに対して言語的攻撃を起こしやすい特徴であると考えられた．

1） 1年生女子の攻撃性

１年生女子の攻撃性は，身体的攻撃が最も大であった．「強い身体的攻撃」の割合は 40%（42%），「強い敵意」は23%（32%），「強い言語的攻撃」は50%（45%），「強い短気」は36%

(38%) であった．また１要因型は40% (75%)，４要因型は５％（７％）であった．

以上のように，１年生女子の攻撃性は平均値からは身体的攻撃が最も大であったが，判定基準からは「強い言語的攻撃」の割合が最も大で，2006年の結果と比べると増加している．それに対して，他の要因は減少しているといった結果であった．

2）２年生女子の攻撃性

２年生女子の攻撃性は，敵意が最も大で，統計的にも有意であった．「強い身体的攻撃」の割合は41% (38%)，「強い言語的攻撃」は32% (30%)，「強い短気」は44% (44%)，「強い敵意」は34% (29%) であった．１要因型は71% (70%)，４要因型は７％（７％）であった．

また１年生のときの「強い身体的攻撃」は42%で，２年生になると41%，「強い敵意」は32%が34%に，「強い言語的攻撃」は45%が32%に，「強い短気」は38%が44%であった．このように「強い攻撃性」の割合は２年生になると１年生のときに比べると「強い短気」の割合が大きくなっていることがわかった．

以上のように，２年生女子の攻撃性に関しては，平均値からは敵意が最も大であったが，判定基準からは「強い短気」の割合が最も高かった．

3）３年生女子の攻撃性

３年生女子の攻撃は，敵意が最も大であったが，統計的に有意ではなかった．「強い身体的攻撃」は21% (18%)，「強い言語的攻撃」は32% (36%)，「強い短気」は22% (22%)，「強い敵意」は19% (18%) であった．１要因型は55% (57%)，４要因型は３％（３％）であった．

また２年生のときの「強い身体的攻撃」は38%で，３年生では21%，「強い敵意」は29%が19%に，「強い言語的攻撃」は30%が32%に，「強い短気」は44%が22%であった．このように「強い攻撃性」の割合は３年生になると２年生のときに比べると「強い言語的」の割合は大きくなっているが，他の要因は小さくなっていることがわかった．

以上のように，３年生女子の攻撃性に関しては，平均値からは敵意が最も大であったが，判定基準からは「強い言語的攻撃」の割合が最も高かった．しかしながら，全体としては２年生で高まった強い攻撃性が，３年生では低下傾向を示しているといえる．

(3) 性差

それぞれの攻撃行動の選択と性との関係が確認されている．すなわち男性は身体的攻撃の使用を選択する傾向があり，女性はそれ以外を選択する傾向があるとされている．したがって男子は身体的攻撃をより多く用い，女子は関係性攻撃の傾向を示すとされている．しかしながら，このような選択が攻撃性における性差を十分に説明しているとはいえないが，重要な要因であることは明らかだと考えられている．また男子では15歳～18歳にかけて身体的攻撃が減少するという報告もある．これは言語的攻撃や関係性攻撃の使用が増加したためとされている．このことは攻撃の表現の仕方に変化が起こったためとする可能性が示唆されている．

1）敵意

１年生においては，女子の方が男子よりも大であったが，統計的に有意ではなかった．しかしながら，「強い敵意」の割合は男子が42%で，女子は23%で男子の方が高いといえる．2006

年においては，男子が 50%で，女子が 32%であったことからすれば，男女ともに割合は小さくなっているが，男子の割合が高い．

２年生においては，女子の方が男子よりも大であったが，統計的に有意ではなかった．「強い敵意」の男子は49%で，女子は34%であった． 2006年においては男子が49%で，女子は29%であった．また１年生のときには男子が 50%で，女子が 32%であった．以上のことから，１年生のときの「強い敵意」の割合と比較するとほとんど同じで，男子が高いといえる．

３年生においては，女子の方が男子よりも大であったが，統計的に有意ではなかった．しかしながら，「強い敵意」の割合は男子が22%（28%）で，女子は19%（18%）であった．また２年生のときには男子が49%で，女子が29%であった．以上のことから，２年生のときの「強い敵意」の割合と比較すると男女ともに小さくなり，特に男子において顕著であった．

２）身体的攻撃

１年生においては，男子の方が女子よりも大で，統計的にも有意であった．「強い身体的攻撃」の男子は27%（33%）で，女子は40%（42%）で女子の割合が高いといえる．以上のことから，平均値からは男子の方が大きいが，強さの割合からは女子の方が高いといえる．

２年生においては，男子の方が女子よりも大で，統計的にも有意であった．「強い身体的攻撃」の男子は47%（42%）で，女子は41%（38%）であった．また１年生のときには男子が33%で，女子が 42%であった．以上のように，「強い攻撃性」に関しては，女子はほとんど変化がないにもかかわらず，男子は２年生になると割合が高くなることがわかった．

３年生においては，男子の方が女子よりも大で，統計的にも有意であった．「強い身体的攻撃」の男子は30%（28%）で，女子は21%（18%）であった．また２年生のときには男子が42%で，女子が38%であった．以上のように，男子の場合，２年生で高まった「強い身体的攻撃」の割合は３年生になると低くなり，女子の場合はさらに低くなることがわかった．

３）言語的攻撃

言語的攻撃は８歳においては男児の方が多いが，その後は性差がなくなり，男女ともに増加していくとされている．

１年生においては，男子の方が女子よりも大であったが，統計的に有意ではなかった．「強い言語的攻撃」の男子は61%（62%）で，女子は50%（45%）であった．このように,男子の方が量的にも質的にも高いといえる．

２年生においては，男子の方が女子よりも大で，統計的にも有意であった．「強い言語的攻撃」の男子は44%（45%）で，女子は32%（30%）であった．また１年生のときには男子が62%で，女子が45%であった．以上のように，２年生になると男女ともに「強い言語的攻撃」は減少傾向にあるが，男子の方が高いといえる．

３年生においては，男子の方が女子よりも大で，統計的にも有意であった．「強い言語的攻撃」の男子は39%（46%）で，女子は32%（36%）であった．また２年生のときには男子が45%で，女子が30%であった．以上のように，３年生になると男子の「強い言語的攻撃」は減少傾向を示すが，男子の方が高いといえる．

4）短気

1年生においては，女子の方が男子よりも大で，統計的にも有意であった．「強い短気」の男子は41%（50%）で，女子は36%（38%）であった．以上のように，平均値からは女子の方が大であるが，強さの割合からは男子の方が高いといえる．

2年生においては，女子の方が男子よりも大であったが，統計的に有意ではなかった．「強い短気」の男子は44%（43%）で，女子は44%（44%）であった．1年生のときには男子が50%で，女子は38%であった．以上のように，2年生になると「強い短気」を示す男子は減少傾向を示すが，女子は増加傾向を示しているといえる．

3年生においては，女子の方が男子よりも大で，統計的にも有意であった．「強い短気」の男子は23%（26%）で，女子は22%（22%）であった．2年生のときには男子が43%で，女子は44%であった．以上のことから，平均値からは女子の方が大であるが，強さの割合からいくと男女ともにほとんど同じにまで小さくなるという傾向がみられた．

要　約

本研究は，中学生の攻撃性の傾向を身体的攻撃，言語的攻撃，短気，及び敵意から検討することを目的として行い，以下のような結果を得た．

（1）男子生徒の攻撃性

1）全学年の攻撃性

① 身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．

② 「強い攻撃性」に関しては言語的攻撃が48%で，最も大であった．

③ 1要因型は78%，4要因型は7%であった．

2）1年生の攻撃性

① 身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．

② 「強い攻撃性」に関しては言語的攻撃が61%で，最も大であった．

③ 1要因型は84%，4要因型は10%であった．

3）2年生の攻撃性

① 身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．

② 「強い攻撃性」に関しては敵意が49%で，最も大であった．

③ 1要因型は85%，4要因型は9%であった．

4）3年生の攻撃性

① 身体的攻撃が最も大で，統計的にも有意であった．

② 「強い攻撃性」に関しては言語的攻撃が61%で，最も大であった．

③ 1要因型は66%，4要因型は3%であった．

（2）女子生徒の攻撃性

1）全学年の攻撃性

① 敵意が最も大であった．

② 「強い攻撃性」に関しては言語的攻撃が38%で，最も大であった.

③ 1要因型は55%，4要因型は5%であった.

2）1年生の攻撃性

① 身体的攻撃が最も大であった.

② 「強い攻撃性」に関しては言語的攻撃が50%で，最も大であった.

③ 1要因型は40%，4要因型は5%であった.

3）2年生の攻撃性

① 敵意が最も大で，統計的にも有意であった.

② 「強い攻撃性」に関しては短気が44%で，最も大であった.

③ 1要因型は71%，4要因型は7%であった.

4）3年生の攻撃性

① 敵意が最も大であった.

② 「強い攻撃性」に関しては言語的攻撃が32%で，最も大であった.

③ 1要因型は55%，4要因型は3%であった.

（3）性差

1）敵意

① 各学年ともに女子の方が大であったが，統計的には有意でなかった.

② 1年生において「強い敵意」の男子は42%で，女子は23%であった.

③ 2年生において「強い敵意」の男子は49%で，女子は34%であった.

④ 3年生において「強い敵意」の男子は22%で，女子は19%であった.

2）身体的攻撃

① 各学年ともに男子の方が女子よりも大で，統計的にも有意であった.

② 1年生において「強い身体的攻撃」の男子は27%で，女子は40%であった.

③ 2年生において「強い身体的攻撃」の男子は47%で，女子は41%であった.

④ 3年生において「強い身体的攻撃」の男子は30%で，女子は21%であった.

3）言語的攻撃

① 各学年ともに男子の方が女子よりも大であったが，1年生に関しては統計的に有意でなかった.

② 1年生において「強い言語的攻撃」の男子は61%で，女子は50%であった.

③ 2年生において「強い言語的攻撃」の男子は44%で，女子は32%であった.

④ 3年生において「強い言語的攻撃」の男子は39%で，女子は32%であった.

4）短気

① 各学年ともに女子の方が男子よりも大であったが，2年生に関しては統計的に有意でなかった.

② 1年生において「強い短気」の男子は41%で，女子は36%であった.

③ 2年生において「強い短気」の男子は44%で，女子は44%であった.

④　3年生において「強い短気」の男子は23%で，女子は22%であった.

参 考 文 献

市村操一　(2004)　怒りのコントロール　ブレーン出版

神田信彦・酒井久実代・杉山成　(2005)　なぜ攻撃してしまうのか　ブレーン出版

木野和代　(2000)　日本人の怒りの表出方法とその対人影響　心理学研究，70，No. 6，494－502.

大竹恵子・島井哲志・曽我祥子・嶋田洋徳　(1998)　中学生用攻撃性質問紙（HAQS）の作成（1）　日本心理学会第62回大会発表論文集，930.

嶋田洋徳・神村栄一・宇津木成介・安藤明人　(1998)　中学生用攻撃性質問紙（HAQS）の作成（2）　日本心理学会第62回大会発表論文集，931.

島井勝之・山崎勝之　(2002)　攻撃性の行動科学―健康編　ナカニシヤ出版

曽我祥子・嶋田洋徳　(2001)　中学生の攻撃性と性格特性　日本心理学会第65回大会発表論文集，533.

朝長昌三・福井昭史・小島道生・中村千秋・小原達朗・柳田泰典　(2006)　中学生の攻撃性に関する研究　長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要，5，183－200.

山崎勝之　(2002)　攻撃性の行動科学―発達・教育編　ナカニシヤ出版

柳田泰典・朝長昌三・中村千秋・小原達朗・福井昭史・小島道生　(2006)　子どもの攻撃性と他者認識　長崎大学教育学部紀要，70，1－15.